



伝えていますか?正しい「性の知識」 子どもたちが幸せに生きていくために



正しい性の知識を子どもたちに伝えることは、その子が幸せに生きていくのを助けてくれます。また、性犯罪や望まぬ妊娠など、性にまつわるトラブルから子どもたちを守るよりどころともなります。そうは言っても、実際に子どもと「性」について話すのは難しいなあと感じている人も多いのではないのでしょうか? アムでは、このデリケートで大切な問題を取り上げてみました。



家庭で子どもたちに「性の知識」伝えていますか?

(市内の小学校PTAの方々240人が回答しました)

はい 40%

いいえ 60%

「はい」の人が答えました / 主に何を伝えていますか?

男女の体のしくみと変化(生理・精通).....30人
プライベートゾーン ※2面参照11人
妊娠と出産6人
すべて3人
子どもに質問されたら話す3人



「いいえ」の人が答えました / 伝えていない理由は?

まだ早い、理解できる年齢ではない27人
子どもが聞いてこない、興味がなさそう8人
親に知識がない、伝え方が分からない8人
チャンスがない、機会が作れない7人
どのタイミングで話せばよいか分からない6人
学校の授業に合わせるつもりでいる3人
他の子と認識が異なってしまうか心配1人

アンケートの自由記述欄から

伝えている人の中から

- まだ小さいからとあやふやに伝えず、小さい時から伝えることが大切だと思います。
- 性教育は乳児期からとても大切にするべきものなのに、日本ではまだその考えが浸透していません。
- 親が恥ずかしがらずに伝えることが大切だと考えます。

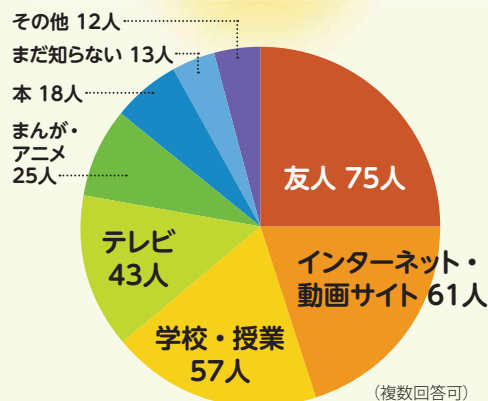
まだ伝えていない人の中から

- 聞かれた時にどう伝えたらいいかわからない。あまりハッキリ言うのもどうかと思うけど、ぼかし過ぎても伝わらなかつたら意味がないかなと思う。
- 伝え方、タイミングが分からない。
- 下手に伝えて、変なことになったら嫌なので教えていない。

アンケートの自由記述欄では、「伝えたいけど、そのタイミングや伝え方が分からない」というお悩みが多く寄せられました。

2面以降で、上手な伝え方、そして伝えることの深い意味を特集します。

全員が答えました / 子どもは性の知識をどこで 得ていると思いますか?



「性の知識」どう教えたらい？

親たちの「困った」に答えます！

子どもに教えようと思っているのですが、「ちんちん」「おまた」と呼んでよいですか？

子どもが小さい時は「ちんちん」「おまた」でもよいですが、それは幼児語ですから、少し大きくなったら使えません。「性器」という正しい名前も同時に教えます。「男性性器」「女性性器」と使うのはどうですか。私は自分の子どもはもちろん、講座で担当した5歳児のクラスでも「性器」で教えています。

子どもは親に質問してきませんが、いつ頃、教えたらいでしょうか？

質問しないからといって、興味がないとは言えません。どのように子どもが生まれてくるのか」という疑問は、根本的なものですから、誰しも興味があつて当然です。むしろ、それを子どもが全く質問しないのなら、質問できない家の関係ではないかと考えてみることも必要でしょう。その上で、「いつ」ということですが、早すぎることはありません。たとえば、お風呂場で性器の洗い方を教える、3歳ぐらいで、自分ででき



るようになります。そこで、もう親は手伝わないから、自分で洗うようにと伝えるのです。すると、性器は自分で管理するところで、こわいものや人に触れられない、また自分も誰かの性器に触れたりしないということが、自然に身につきます。

低学年の教室で、性交から出産までを教える授業を見ることがあります。その時、子どもたちは、みんな自分が「性交する側」ではなく、「生まれる側」になって、授業を聞いているのです。

「生まれる側」に立つて、性の話を聞けるのは小学校低学年までです。それ以後は「性交する側」の視点を持つように発達するという説があります。

性教育は「母親が娘に、父親が息子に」と役割分担したほうがいいでしょうか？

教えるのに性別は関係ありません。ただ、男性でも女性でも何の準備（学習）もなく、子どもに教えるのは無理ですから、まずは2、3冊本を読むなどし、正確な言葉で教えてもらいたいですね。

「プライベートゾーン」について教えているのですが…

プライベートゾーンは、いわゆる「水着で隠れる部分で、その部分はむやみに人に触らせない」と子どもに教えている方も多くに思えます。でも、プライベートゾーンって、その部分だけでしょか。体中どこでも、触っていいかどうか、快不快かは相手との間柄によるでしょう。肩に手を置かれたとき、プライベートゾーンじゃないから、我慢しなくちゃと勘違いする子がいるかもしれない。「プライベートゾーン」だけ教えておけば大丈夫と思うのは危険です。性犯罪は非常に狡猾で、「たくさんキャンディを買ったから、いっしょに食べないか」といった一見、あつた日常の誘いの文句から始まり、プライベートゾーンに手が伸びた時には、もう手遅れということも多いのです。

さらには、もうひとつの言葉で注意しておきたいのは、「良いと言っていないのに人に触らせない」という「人」の中に家族も含まれていることです。最近では核家族が中心ですが、我が国の核家

族はプライバシーの壁が薄く、性被害を生みやすい面があります。そのため家庭内での性虐待を意識しておく必要があります。お風呂から上がる時、脱衣所で衣服をつけて出てくるとき、家族であつておけじめのある生活が予防になります。



「赤ちゃんがどうやって生まれてきたの？」への上手な答え方は？

おかたのおとなの体の男性は精子を、女性は卵子を体の中につくります。

精子は体の奥の方に在り、精子は精巣（男の子は実感です）で作られ、ペニス（陰茎、おしっこが出る筒）の先から体の外に出ます。ペニスを臍（おしっこが出る尿道口）とウチン（出る肛門）の間にある赤ちゃんの育つ子宮に通じる筒に入れて精子を卵子に届けます。精子と卵子が合体して子宮の中でうまく育つことができれば、やがて赤ちゃんになって、たいいの赤ちゃんは臍から生まれてきます。※この時余裕があれば聞く力のある子なら帝王切開や体外受精のことを話してもいいでしょう。

自慰行為はどうみればよいのでしょうか。

性に対する欲求は、脳の一番奥の方にある視床下部が働いて起きます。さまざまな要因によって視床下部は刺激され、性行動を促します。その時、他の存在がなくとも、自分の意志で性行動をコントロールできるのが自慰です。自律的な性行動として、カプル（カップル）になって必要です。当然子どもにとつても自然なことです。



国際セクシュアリティ教育ガイダンス

国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が中心となり作成した国際的な性教育の標準的指針

これまでの性教育

性に関する知識やスキル

↓

包括的性教育

人権、ジェンダー平等、多様性、幸福、健康などを包括的にカリキュラムに沿って学ぶ

世界的な指標はありますか？

国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が「国際セクシュアリティ教育ガイダンス(※左図参照)」を出しています。そこに書かれているのは、それぞれの人権を認め、誰もが幸せに生きることができ、さす「包括的な性教育」です。

私たちの世界は、異性愛だけでなく、性に關しても、とても多様です。多様性を認め、身体を大切に、人と良い関係を築き、安心して生きられることを伝えるのが、「包括的な性教育」です。ぜひ、家庭で子どもたちに、そうした性教育をしてほしいと願っています。



あだらみ 安達優雅子さん

1937年大分県大分市に生まれる。明治大学文学部日本文学専攻科卒業。電話相談員。"人間と性"教育研究協議会幹事。

編集委員が見つけたお役立ち本



「赤ちゃんはどこからくるの？」 のじまみ(著) 幻冬舎

小さなころから知っておいてほしい性と性のふしぎを、親子一緒にかわいいうええ・マンガで楽しく学べる一冊。



「あっ！そうなんだ性と生」(えほん) 浅井春夫、安達優雅子、 北山ひと美、中野久恵、 星野恵(編著)、勝部真規子(絵) エイデル研究所

子どもと一緒に読めば、親が、性の話をしなくても大丈夫です。



「これからの男の子たちへ」 太田啓子(著) 大月書店

ジェンダー問題に取り組む弁護士ママの社会のハテナにはっとさせられる。パパママに読んでほしいベストセラー。



あるシニア男性の独りごと

「享主元気で留守がいい」

久しく聞かない言葉だが、今、我が家では、この逆の現象が起きている。「妻元気で留守がいい」である。

というのは、仕事をしていた妻が、膝の手術をし、リハビリのため長期の休暇を取って、一日中家にいることになった。私は年金暮らしだから、当然、一日中妻と顔を合わせなくてはならない。今年は、金婚式を迎えたほど、妻とはけんかなどしたこともなく、夫婦円満のはずなのだが、一日中顔を突き合わせているとそうもいかない。

「コーヒーできた?」「食パン焼いて!」「洗濯した?」「ゴミ捨てた?」「食器洗って!」と、機関銃のように飛んでくる妻の言葉。

妻が仕事に行っていた時は、家事は私がほとんどしていたし、「言わなくても、やるのに」と、心では思っていた。でも、こうも矢張り早に言われると、「分かっ



てるよ!」すら言えない内気な私は、「妻元気で留守がいい」と、つぶやくのが精いっぱいである。

考えてみると、私が現役で仕事をし、妻が専業主婦だったころ、妻は、「享主元気で留守がいい」と思っていたのかもしれない。

とにかく、妻には早く元気になるてもらいたい。本心からそう思っているのです。(秋)

立川この人

自分たちが持つ防災力を生かして、被害を最小限に

立川市災害ボランティアネットワーク代表

矢野和孝さん

●防災に興味を持たれたきっかけは？

私が災害に最初に出会ったのは、5歳の時、人的災害ともいえる戦争です。空襲を恐れた父母がいち早く千葉の親戚の家に疎開させてくれました。案の定その後の戦災で、新宿の家は焼失。戦後、目黒に住む父の知人が六畳一間を貸してくれ、東京に戻れましたが、今度は父の勤め先が相次いで倒産し、父は失業の憂き目に遭ってしまいました。幸い、ご近所の皆さんが米味噌・醤油などを貸してくれたので生き残りました。ご近所の助けの重要さは、この時私の脳裏に深く刻まれました。首都直下地震後の社会は、戦争直後



防災訓練の様子

の東京の風景を彷彿させるものになるかもしれません。その後、転々とし、終の棲家（すまか）を思い町田に移りました。ところが突然、裏山一帯の大規模な宅地開発が持ち上がったので、私も反対しましたが、我が家の地盤が阪神・淡路大震災時の地滑り現場の地質、地形と酷似しており、地震が起きたら最大の被害家屋になると分かり、最終的には移転することにしました。

移転先は、山を削った分譲住宅地で、驚いたことに地震の揺れが穏やかなのです。地震の揺れは「地盤」によって異なることを知りました。運よく何度も災害をまぬがれた恩返しにと、三宅島火山噴火や水害、地震などの被災地に災害ボランティアに行きました。立川市には2009年に転居してきました。すぐに社会福祉協議会から、災害ボランティア組織の立ち上げを相談され、準備会から参加しました。

●「立川市災害ボランティアネット（立災ボ）」の活動は？

会の正式発足は2011年4



月です。「東日本大震災は他人事ではない、自分事」ととらえた市民7人で出発しました。

最初の活動は、市内の都立高校の防災連続講座の支援。次に、市の助成金による「災害ボランティア・リーダー養成講座」の5年間開催。そして今取り組んでいるのが「市民のための体験型防災講座」です。あいにくのコロナ禍のため、4期目はオンライン開催となりました。

その他にも、立川市の総合防災訓練等への協力、出前講座への講師派遣、毎月の定例会と忙しく活動しています。また、「立災ボ」のNPO法人化の検討を進めており、実現すれば、行政や企業との連携等がよりスムーズになると思っています。

メンバーは講座の修了者が次々と参加してくれ、現在46人うち女性は17人です。

●避難所運営に女性の視点と

いう声が強くなっています。

おっしゃるとおりです。避難所は、男性も女性も一時、一緒に生活する場ですが、その運営となると、やはり男性が中心です。女性たちの生活の知恵を避

難所運営にぜひ生かしていただきたいです。女性参加の道をより広げることを目指し、ここ8年連続で男女平等参画課と連携した防災講座を開催しています。また、避難所の女性たちの深刻な問題として、性暴力被害が相当数あることが、すでに阪神・淡路大震災の頃から指摘されています。各避難所の運営責任者が「絶対に許さない」という強い態度で臨まないといこの問題は根絶できません。

一方、男性たちの問題として、避難所で仕事を見つけれず「生活不活発病」で亡くなる方が多いことが挙げられます。「被災者は避難所のお客様ではなく主人公」であることを忘れてはならないと思います。

●立川市民へのメッセージは

大規模災害発生直後は、行政が被災する場合も考えられます。そうすると行政の支援もすぐには期待できません。阪神・淡路大震災では「初めの3分間は自分の身を守るのが精いっぱい、次の3時間で家族や近所で安全な場に避難し、3日間は外部の支援を待つ、自力での生活だった」と話す被災者が多く、「3・3・3の原則」と名付けられました。まずは「3・3・3の原則」を普及させ、自助と共助の大切さを知っていただきたいです。各地で起きている災害は他人事ではない、自分事と思って、力を合わせ、市民の防災力を向上させていきましょう。

審議会等に参加して女性の意見を市政に

「審議会等」とは、市民や専門家の意見を施策に反映させるための機関です。

誰にとっても住みやすい市にするため、さまざまな分野の公募委員に応募し、女性の声を市政に届けましょう。

男女平等参画苦情処理制度をご存じですか

立川市男女平等参画基本条例では、市の施策が男女平等参画の促進に影響を及ぼす場合等に、男女平等参画苦情処理委員に苦情の申し出をすることができます。申出書の提出方法等は男女平等参画課にお問い合わせください。

生理用品を配布しています

女性総合センターでは、防災備蓄品を活用して、必要な方に生理用品をお配りしています。



「情報紙アイム」へのご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどお寄せください。

①danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp バックナンバーは、立川市ホームページから「情報紙アイム」で検索してください。

アイム企画・編集

市民編集委員：原和美(助言者)、萩本悦久、長谷山聡子
イラスト協力：矢島友美

令和3年度立川市 ワーク・ライフ・バランス 推進事業所を認定しました

株式会社 情報実業

取り組みの主なポイント

- 積極的な有給休暇取得を推奨
- 有期労働契約から無期労働契約へ、生活スタイルに合わせた働き方を実施
- 地域情報サイトの運営を通して地域のイベント等に参加
- 在宅勤務が可能なテレワーク環境の構築

認定事業所の取り組みがわかる「立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定式」&ミニセミナー開催!!

令和4年2月8日(火)午後1時30分から
詳しくは広報たちかわ(12月25日掲載予定)、または立川市ホームページで

立川女子高校演劇部 全国大会2位 女子高生の日常描き反響



立川女子高校の演劇部が、8月上旬に行われた全国高校演劇大会で、最優秀賞に次ぐ優秀賞・文化庁長官賞、創作脚本賞を作品「おんなのこのひ」で受賞しました。「女子高生が興味を持つような、女子高にしかできない演劇」を顧問の角田奈月教諭を中心に作り上げてきた演劇部。部長の白田つぐみさんは「コロナ禍で制限がある中のこの経験を今後の糧にしたい。中学生や地域の方にも興味を持っていただければ」と話しています。